

2013（平成 25）年度予算について

青山学院財務部

青山学院の 2013（平成 25）年度（以下、当年度）資金・消費収支予算は、予算会議の議を経て、収益事業部予算とともに、本年 3 月 21 日開催の評議員会、引続き開催の理事会で承認されました。

当年度の予算編成に先だち、2012 年 6 月 1 日に理事長名で「2013 年度予算編成方針」を各学校（以下各部）に発信しました。具体的には、「①各部において収入拡大への努力を最大限行うこと、②臨時的経費については、必要性・緊急性を吟味し厳選すること、③経常的経費については、まずはゼロベースで考え、予算項目一つ一つを精査し、真に必要な予算のみを申請すること」とし、通常の帰属収入で通常の消費支出を賄い、さらに帰属収支差額の拡大に努めることを基本方針とするものです。

当年度予算は、収入面では、学生生徒等納付金収入で若干の増収が見込まれる以外は、手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入等が減収となっております。そのため支出面では、肥大化傾向にある経常的経費について、政策的な予算（臨時的経費）へ充てるための減額調整等を行い、施設系の臨時的経費である大規模修繕・維持関係予算も圧縮しました。また人件費総額の高止まりに対する施策を行うことを前提に人件費支出も調整しております。

当年度実施予定の主な案件としては、

- ① ICT ネットワーク教育研究システム更新に伴う費用（9.6 億円）
 - ② 青山キャンパス再開発の一環としての大学新図書館棟（仮称）基本計画料・高等部校舎建替工事費・中等部校舎建替工事設計費（2.6 億円）
 - ③ 東日本大震災被災学生支援諸経費（0.8 億円）
 - ④ 大学就学キャンパス再配置に伴う諸経費等（1.1 億円）
- 等があります。

本学は当年度から大学の就学キャンパス再配置により人文・社会科学系学部のすべての学生が青山キャンパスで学ぶ新たな体制となるため、昨年 4 月には大学 17 号館が竣工し、新図書館棟の建設も計画しております。高等部においても校舎建替の最終工期となる体育館工事が始まり、中等部でも新校舎の建築を計画するなど、青山キャンパス再開発を着実に推進しております。

少子化や長引く経済の低迷により、本学を取り巻く環境は厳しい状況にあります。中長期的な視野をもって限られた財源を教育研究経費に有効配分するためにも、その他の経費の抑制や支出削減等、青山学院は従来以上に厳正な予算執行に努めてまいります。

以 上